

8月
2017年

143号

地域共創・未来共創の大学へ

広 沖縄大学 報

発行

沖縄大学経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎ 098(832) 2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>



4月にオープンした沖縄大学アネックス共創館

Contents

- 02 国場555PROJECT (辺土名律)
- 03 新入生歓迎スポーツ大会／第58回沖大祭PR
- 04 サッカー部紹介／リレーエッセイ (志良堂かなさ)
- 05 研究のひろば (喜屋武政勝)／わがゼミナール (豊川明佳)
- 06 海外留学紀行 (チャン・ティエン・タン／神谷成実)
- 07 子どもの貧困問題解決に向けて
- 08 沖縄大学アネックス共創館／
創立60周年記念事業寄附金報告
- 09 2017年度入学式
- 10 2017年度冠奨学金授与式／後援会・同窓会総会報告
- 11 2016年度決算・2017年度予算
- 12 2018年度入試案内

学長コラム ⑨

沖大が一番

仲地 博

全国に大学・短大がいくつあるかご存知だろうか。国立、公立、私立併せて実に一千を超える。その中で、沖縄大学が「一番」あるいは「唯一」、「最初」がいくつもある。まず、沖大が日本で「一番」南に位置する大学である。また、県都那覇市にある「唯一」の文系総合大学である。ここから、沖縄で学ぶ、沖大で学ぶことの意義が見えてくる。

琉球王国の一時代は、万国津梁（諸国に船で橋を架ける）の活躍をした。戦前は、南洋諸島、南米諸国に多くの移民を送りだした。戦後は、日本独立後もアメリカ統治下に置かれた。そう、きわめて国際的地域なのだ。目を凝らせば、沖大からはアジアが見える、日本が見える。

また、沖縄は、日本で「唯一」亜熱帯地域に所在する島嶼県だ。それぞれの島が、豊かな自然、独自の文化を持つ。若い感性は大いに刺激され、想像の翼が広がり、それは創造へとつながる。

沖大は、全国で「最初」に単位互換を制度化した。単位互換はいまや珍しくないが、学生をまるごと相手大学に送る派遣制度を実施する大学は今でも少ない。沖大学生は、北海道でも東京でも京都でも1年間学ぶことができる。沖大自慢の国内留学制度で、40年前から実施している。ところで、中央教育審議会は、学生の流動性の向上を検討している。私立大学の連合会も、学生の交流を「渡り鳥」制度として提案している。沖大の「最初」の取り組みに、時代がようやく追いついてきたのだ。

そしてもう一つ付け加えよう。沖大は、学生を「一番」大切にする大学だ。学生数2千名で年間1億3千万円の返還不要の奨学金を給付する沖縄大学は、まちがいでなく全国「トップ」クラスであろう。



前列中央が辺土名君

等身大の姿で革命を

国際コミュニケーション学科2年次 辺土名 律
(コザ高校卒)

国場555プロジェクトは、
沖繩大学の様々な行事の企画、
運営を行う団体である。自ら活
動し、沖繩大学を変えたい、良
くしたいという想いから動き、

仲間と共に日々、沖繩大学のこ
とを考えている。オープン
キャンパスの内容も、国場
555プロジェクト内のメン
バーで企画している。オープン

キャンパスの実行委員長を務
めるのが、辺土名律、つまり私
である。実際にオープンキャン
パスで様々な企画を実行す
る中で、沖繩大学のオープン
キャンパスは、県内の他の大学
よりも、実に高校生に寄り添っ
た内容になっていると私は考
えている。

ここからは、実際に行われ
ている沖繩大学のオープン
キャンパスの内容と、なぜそれ
を企画したのかについて話し
たい。

まず、今年から導入した大
きなものが2つある。1つ目は、
「沖大なうキャンペーン」だ。こ
れは、SNSでハッシュタグを
つけ、「#沖大なう」とオープン
キャンパスに来てくれた高校
生に配信してもらっている。も
ちろん、普段から学生にも使っ



てもらっている。Instagram
やfacebookではあまり
広がってはいないが、Twitter
で検索すると多くの投稿
が見られる。なぜこれをするの
か。それは、学生と高校生が
SNSを通して繋がり、沖繩大
学をより高校生に身近な大学
として認識して欲しかったか
らだ。結果、オープンキャンパ
ス後にTwitterで連絡をく
れる人、入試について質問して
くる人が増えた。教員や職員に
聞くよりも、現役の学生の方が
質問しやすかったり、よりリア
ルな沖繩大学を知ることがで
きる。ぜひ、高校生にもっと活
用してもらいたい。

2つ目は、「在学生夢トーク」
だ。これは、実際に沖繩大学で
活躍する学生が、自身のこれか
らのビジョンや、沖繩大学で何
をしているのか、学外で何をし
ているのかなど、高校生に向け、
20分程度で話してもらってい
る。第一回は、国場555プロ
ジェクトのリーダーである照
屋一輝さんが、国場555プロ
ジェクトによる沖繩大学の改
革を夢見る姿を話した。第二回
は、私が将来の夢や今までの自
分自身について語り、どの回も
高校生はもちろん、スタッフと
して参加した学生にも影響を
与えた。人前で自身のことを話
すことは、非常に緊張する。人



生でこうした機会はあまりな
い。故に、この貴重な体験がで
きるのは在学生にとっても、非
常に良い機会だ。この企画は、
在学生のためのものでもある。
実際、私は「夢トーク」が終わっ
て帰るとき、涙を流す高校生に
会った。なぜかと聞くと、「私の
話に感動した」と言うのだ。そ
れも1人ではなく、他にも涙す
る高校生がいた。自身の話が人
の心を揺さぶったと思うと、私
も感動し泣きそうになったこ
とが今でも頭に浮かぶ。

沖繩大学を大きく見せるの
ではなく、ここで努力する学生
を見せる。より、高校生と在学
生のためのオープンキャンパ
スを。ここから次世代の沖大生
に革命が起こることを、私は
願っている。

新入生歓迎 スポーツ大会



新入生歓迎スポーツ大会 実行委員長
法経学科3年次
眞壁 孝享
(糸満高校卒)

去る5月15日に、那覇市民体育館にて新入生歓迎スポーツ大会を開催し、700名を超える沖大生がバレーボールで汗を流しました。私は、実行委員メンバーと共に大会を作りあげていく上で、前回の反省点である、「タイムスケジュールの遅れ」を改善するために、仲間と意見を出し合いました。各班のシフトを決め、各自の仕事を確認したことで、委員各自が責任を持って行動するようになりました。その結果、タイムロスが減り、分刻みのスケジュール通りの進行ができました。

また、例年より多い参加人数だったため、今回は競技を1種目に絞ることで、1チームあたりの試合数が増え、チームごとのコミュニケーションを取る機会が増えたと思います。出場チームごとに特色があり、敗れたチームも、同じ学科や友達とのチームを応援す



ることで繋がりができ、一層の盛り上がりを見せました。しかし、反省点もあります。決勝試合前の雰囲気盛り上げ、一体感を高揚させるような演出や、表彰式での音響を工夫させることで、より一層、大会が盛り上がり、イベントとしてさらに高みにのぼることが出来たのではないかと思います。次回は、この反省を活かすことで、より良い大会にしたいです。大会の準備から実施するまでの間に、仲間と同じ目標に向かって協力することの難しさを感じたことがあります。しかし、実行委員一人一人が笑顔で運営することや、常に声を掛け合いコミュニケーションを密にすることで、新入生歓迎スポーツ大会を成功さ

せることができ、仲間と共に目標を達成することへのやりがいを感じることもできました。改めて学科・学年の壁を越え、教員・職員の方々と一体となることができているのだと思いました。今後も、学生だけでなく、教員・職員を巻き込んだイベントを企画、運営していきたいと考えています。

第58回 沖大祭 PR

開催日

2017年
11/4(土)・5(日)



第58回沖大祭実行委員長
福祉文化学科2年次
比嘉 咲綾
(南風原高校卒)

今年の沖大祭は、「歓言愉色(かんげんゆしよく) Let's enjoy 沖大祭」をテーマに掲げました。「歓言は楽しく話をする、談笑、愉色」は楽しい表情、笑顔とい



う意味を持っています。テーマに沿って楽しく、沖大らしい色を出せるような学祭を作り上げていきたいと思っています。沖大祭の最大の見所は、ステージでの様々な企画です。昨年度は、借り人競争や物当てクイズを行い、〇〇の主張のコーナーでは、日頃は言えないことも言えたりして、とても盛り上がりました。今年度も、前回以上に盛り上がるような催し物を企画しています。特に、沖縄大学の基本理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」、「地域共創・未来共創」を重視し、地域と学生の交流をさらに深めていきたいと思っています。



沖大祭実行委員として運営を担当する国場555プロジェクトには、新入生もたくさん加入し、総勢約80名のメンバーで沖大祭を運営します。今年度の実行委員会のコンセプトを「伝統」と掲げ、これまでの実行委員会が作り上げてきたものを引き継ぎ、更に発展させた沖大祭にしたいと思っています。私自身、沖大祭を経験するのは今年で二回目なので、前回の反省や経験を活かし、より良いものを、沖大祭実行委員のメンバーと力を合わせて作れたらと思っています。昨年度は施設班の班長を務めましたが、沖縄大学の各建物や広場を活かせるような出店の配置ができなかったため、今年度はそういった部分にも力を入れたいと思います。私は、那覇市長田出身ということもあり、小さい頃から近所の沖縄大学を身近に過ごしてきました。この沖縄大学という場は、小学生から高齢者まで、様々な世代の人たちが集う場所だと思っています。親しんだ地域と開かれた大学の特色を活かし、老若男女、訪れる全ての方々に沖大祭を楽しんでほしいと思います。皆様のご来場をお待ちしています。

九州大学サッカーリーグ(2部)
昇格を目指して

サッカー部 主将

伊敷 晃帆

長崎総合科学大学附属高校卒
福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻 3年次

現在、サッカー部は部員28名・マネージャー2名の計30名が所属し、月・水・金曜日は、4月からオープンした「沖縄大学アネックス共創館」の小グラウンドで練習しており、土・日は西原グラウンドで、仲間と切磋琢磨しながら汗を流しています。

私たちは、九州大学サッカートーナメント大会(本戦)の会場と、12月に開催される九州各県大学サッカーリーグ決勝大会の優勝(九州大学サッカーリーグ2部昇格)を目指して活動しています。昨年4月に開催された九州トーナメント(予選)では、



琉球大学にPK戦の未敗れて、本戦へ出場出来ず悔しい思いをしましたが、11月の九州リーグ決勝大会(沖縄代表決定戦)では、琉球大学に3・2で競り勝ち、リベンジを果たすことが出来ました。しかし、12月に長崎県で開催された九州大会では、1回戦で長崎県立大学に1・2で敗れ、2年連続1回戦敗退という結果となりました。

私は、チーム唯一のゴールキーパーとして活動していたのですが、2部リーグ昇格をかけた九州大会の前に、大怪我をしてしまい、チーム全体に迷惑をかけてしまいました。今年は、人生初のチームキャプテンを任せられ、わからないことばかりですが、チームメイトに意見をもらいながら、昨年・一昨年は何が足りなかったのかを自分なりに考え、試行錯誤しながら頑張っています。今年の九州トーナメント大会(予選)では、1勝1敗のグループ2位に終わり、九州大会出場は果たせなかったのですが、12月9日(土)・10日(日)

リレーエッセイ
第10回

沖大の良さって何ですか？

入試広報室 志良堂かなさ

学生のみなさん、大学職員ってどういうイメージですか？

私が学生の頃の「大学職員」のイメージは、「大学の事務をする人」でした。しかし実際は、事務作業だけではありません。私が所属する入試広報室という部署では、

沖大に入りたい！と思う受験生を一人でも増やすために、県内外の様々な地域・高校で説明会を行う「営業」の仕事を行います。オープンキャンパスを企画運営する「イベ

に沖縄県内で開催予定の九州各県大学サッカーリーグ決勝大会で優勝し、2部昇格を決めたいと思っていますので、応援よろしくお願いします。



ンター」の仕事を行います。また、大学案内やHP、SNSを通して沖大の魅力を発信する「広報」の仕事を行います。

なかでも一番やりがいを感じるのは、学生スタッフと協力して企画運営するオープンキャンパスです。年3回、新企画を盛り込んで、受験生が飽きないようなイベント作りをしています。

今年は、学生の提案で、「#沖大なう」というハッシュタグを使って、オープンキャンパスの楽しそうな様子をSNSでつぶやこう！という新企画を行いました。SNS上に投稿されることで、そのフォロワーにも楽しそうな写真が拡散され、実際にイベントに来られなかった人にも沖大へ関心を持ってもらおうという作戦です(Twitterをやっている方はぜひ「#沖大なう」で検索してみてください！)。また、「沖大生夢トーク」という新企画では、現役沖大生が入学後の経験や考え方の変化についてプレゼンすることで、受験生に大学生になった自分の姿を想像してもらおうという目的がありました。

このように、沖大の魅力を伝えるにはどうすればいいかを学生と一緒に考え、形にした企画が、受

験生からいいリアクションを得られたときに、一番のやりがいを感じます。

よく相談会などで、受験生から「沖大の良さってなんですか？」と聞かれます。それは、学生と教職員の距離が近いことだと思います。思いついた企画を、学生だけでなく教職員のサポートを受けながら実現できるのは、小さな大学ならではのです。昨年度からは、学生と教職員とで一緒に沖大を盛り上げていくための「国場555プロジェクト」もスタートし、アイデアを形にする環境が整いつつあります。沖大生のみなさん、やってみたいことは、ぜひ私たち職員に提案してみてください！実現するための方法を一緒に考えていきましょう。

今回は、教務課の金城慎介さんです！



写真右が志良堂さん

小学生がかな文字や漢字を習得し、教室で「物語」の世界に向かうとき、教師はどのような教材を準備し、どのような方法を用いて、子どもたちの「物語」体験を支援してあげたいのでしょうか？ 私の研究テーマのひとつが、小中学校における文学作品の教材論と教授法です。児童生徒向けの文学作品を読み込んで、その表現と主題を丁寧に分析していく仕事です。そして、それぞれの作品の特性に合わせて、子どもたちが想像し思考してゆく具体的な教え方をさぐってゆくのですね。

この仕事は、ひとりごとこつこつと積み上げてゆくのも楽しいのですが、学生のみならず、現場教師の方々と一緒に、集団的に行うことで、さらに楽しく、その成果も大きなものになってきます。

研究のひろば

「物語」この良きもの —子どもたちに文学作品を どう教えていくか



教育学部
言語学
教授
喜屋武 政勝

おられる方も多いことでしょう。そんな、おなじみのお話も、作品のことに注意すると、いろいろなことが発見できるのです。「あまい あまい かぶに なれ」のおおきな おおきな かぶに なれ」といった作品の表現を「あまい かぶに なれ」といいな。おおきな かぶに なれ」といいた言ひ方と比べると、おじいさんのかぶに対する強い期待や希望を、子どもたちは追体験することができている。おじいさんは、毎日、声に出してかぶを育てていたことも想像できます。「何週間もおじいさんは」水をかけたり／太陽あてたり／足音を聞かせたり／おはなししたり（して育てたよ）（ある授業にて、子どもの発言）。

ややもすると、大人ばかりでなく子どもも速読み・飛ばし読みで「物語」の筋だけをせつかに追い求めがちかもしれません。子どもたちには、豊かな「物語」の世界をじっくりと味わってほしい、ことば（表現）に注意しながら情緒的な体験を積み重ねてほしい、そう願います。また、「物語」を最後まで読み味わったのち、「力をあわせることの喜び」といった価値ある主題も理解してほしいと思っております。現場教師のみならずのお力を借りながら、そのような、国語の授業づくりを研究しております。

わがゼミナール

マーケティングで 地域を描く



法経学科教員（経営学）
豊川 明佳

豊川ゼミの活動目標は、①マーケティングを理解するための基本的な知識を身につけること、②マーケティング的思考力、独創力を身につけること、③マーケティングに関する問題解決能力と実践的な応用力を身につけることです。そのため、世の中で起こっている様々なマーケティング事象から具体的なテーマを発見し、そのテーマに関する問題の設定、仮説の構築と検証、問題の解明と考察といった活動を行います。

昨年度は、沖縄で増え続ける外国人観光客の中でも、特に消費金額の高い「中国人観光客の消費者行動」中国人観光客は

これから何を沖縄で買いたいのか」を分析するため、約800名にアンケートをとりました。中国語で話しかけ街頭で質問することは大変緊張したようですが、そのリサーチ結果を法経学部ゼミナール大会で発表し、グランプリをいただきました。

ゼミナール大会で発表することは、豊川ゼミでは必須条件になっていますが、学生達が頑張ってくれるおかげで、過去3年間連続でグランプリを獲得できています。今年は「外国人から見た沖縄の真の魅力」が何なのかを調べ、地域の価値としてのブランド力を見直し、マーケティング政策立案を目標にしています。

またそれらと平行して、地域経済・産業界との連携プロジェクトなどの多様な実践活動も行なっています。株式会社ナンポーさんのご協力のもと、外国人が求めている土産菓子を調べ、その成果を本社で発表したり、丸紅那覇支店さんのご好意にて、グループ企業約60社が集まる会に学生を呼んでいただき「しまんちゅぬわかむん（沖縄の若手）からのメッセージ」沖縄を担う大学生達の生き方」というパネルディスカッションをさせていただきました。

そして、やはり最近の一番大きなゼミの活動は、大城淳先生のゼミと合同で作成した「沖縄の業界地図2017」です。2017年6月に発売すると同時に、すぐに初版4000部が売り切れ、第2版を印刷しました。学生と共に地域に必要とされる商品を作り、コンセプト設計や流通を考え、消費者の元に届けるという一連のマーケティング・プロセスを行えたことは、本当に嬉しく思います。

豊川ゼミは、これからも理論と実践の双方からマーケティング力を身につけていけるように、学生と共に努力していきたいと思っています。



パネルディスカッションの様子（丸紅那覇支店様提供）



浴衣姿のタンさん（写真中央）

私は今、交換留学生として1年間の予定で沖縄に住んでいます。私はベトナムに沢山の友達がいます。だけど、私を通してのホーチミン市師範大学と沖縄大学では、交換留学した先輩がいません。なので、私は何のアドバイスも得られず沖縄大学に留学にきました。とても心配しました。でも、沖縄に着いたら、沖縄大学のスタッフと

沖縄で感じた温かさ

チャン・ティエン・タン

国際コミュニケーション学科 / 国際コミュニケーション学科 / 日本語学科 / 4年次

学生が迎えに来て、新しい生活のために、全部準備してくれたので、とても嬉しくて温かい気持ちになりました。4月には、新入生と一緒に1泊2日で渡嘉敷島へ行つて、オリエンテーションがありました。海がきれいだったし、友達も沢山できました。

沖縄に来て最初の頃に、困ったことが起こったけれど、皆が沢山手伝ってくれたので、全部解決できました。留学が始まって2週間後に自分の誕生日が来ました。はじめて誕生日に家族と友達がそばにいませんでした。さびしいな〜と思つたけれど、沖縄の友達が誕生日を一緒にお祝いしてくれたので、嬉しい気持ちになりました。それから、私はバイトを探していたけれど、なかなか見つかりませんでした。ある日、私が買い物に行つた時、一人のオーナーと出会いました。その人の娘さんがマクドナルドでバイトをしないかと言つてくれて、面接をして、今はマクドナルドでバイトをしています。オーナーは「私はタンさんの沖縄のお母さん、私の娘はタンさんの姉さんだと思つて、困つたことや寂しいことがあつたら、いつでも連絡していいのよ!」と言つてくれました。友達だけではなくて、沖縄の人は皆とても優しいと思います。日本人はほとんど無宗教なので、教会とかが少ないと思います。でも、私が住んでいる那覇には教会

があり、ベトナム人の司祭や留学生が多く、沢山手伝ってくれてすごくラッキーでした。

ところで、沖縄大学にはベトナム語の授業があります。ベトナム語は難しく、珍しいので、学びたい人が少ないけれど、日本人がベトナム語を勉強する姿勢を見ると本当に感動します。

最近、ハリーや異文化サー

留学生活楽しんでます!

神谷 成実 (向陽高校卒)

国際コミュニケーション学科3年次 / 国際コミュニケーション学科 / 日本語センターへ留学中

私は、今年の四月から、オーストラリアのゴールドコーストで生活しています。元々は、働きながら留学できるワーキングホリデーをするつもりでいたのですが、休学する必要のない交換留学を選択しました。

オーストラリアを選んだ理由は「気候が合うから」だったので、今自分がこんなにもオーストラリア生活を楽しんでいることに驚きます。

クルやビーチパーティーなど、大学の活動にも沢山参加できて楽しいです。また、沖縄の米軍基地に友達と一緒に入つて、映画を見たり、アメリカの料理を食べたりしました。これからまだまだ多くの面白いことがあるはず。沖縄で忘れられない思い出を作りたいので、もっと沢山楽しんでいきたいと思っています。

私はボンド大学に通っています。授業は English Academic Purposes (EAP)、英語でプレゼンテーションをしたり、文章を要約したり、毎週のように実力テストや課題があつたり、少しハードな内容です。しかし、授業は一日二時間の2コマだけで、時間にも余裕があります。課外活動などが盛んなので、授業の後に、バレーやバドミントンをやったり、コミュニケーションイベントに参加して、一部の学生とおしゃべりを楽しんで、りして、とても充実しています。

オーストラリアは色々なことを学ぶ機会に恵まれており、市民図書館にある IELTS (International English Language Testing System) と英会話クラブ、朝食付セミナー、無料上映会、ミュージックライブ、コメディショーパブ、教会主催の無料コミュニケーションセミナーとコーヒータイムなどがあります。毎日、

新しい人たちと出会えて、これまでにないほどの貴重な時間を過ごしています。大自然にも恵まれていて、時々、友達とサーフィンや釣りをしたり、BBQをしたりして楽しんでいます。ただオーストラリアは物価が高いので、英語を使いながらアルバイトをしたり、ホームステイからシェアハウスに変え、自炊をしたり、移動手段もスクーターにしたりして工夫して生活しています。

ここに来て、私の英語が上達したかはわかりませんが、時々「Your English is good.」と誉められた時は嬉しい。しかし一番は、英語で友達とコミュニケーションがとれる時が嬉しいです。

私は留学ができて本当に満足しています。毎日、驚きと学びの連続です。

もし興味があるなら、後悔はないと思うので、ぜひ皆さんにも留学してもらいたいです。



留学生生活を満喫する神谷さん（写真右）



子どもの貧困問題解決に向けて 私立大学研究ブランディング事業

2016年度、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」が始まりました。これは、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学・私立短期大学を、重点的に支援するというものです。全国から198校が申請、その中から40校が選定されました。本学は、事業名を「沖繩型福祉社会の共創—ユイマール

を社会的包摂へ」とし、研究支援や実践支援を行いながら、子どもの貧困の解決に向けた多角的な地域支援の実現を目的として掲げ、選定されました。選定後は、すぐに学内へ研究の公募を行い、個人研究1人と共同研究3班が採択されました。

また、学内外に同事業を広く知って頂くために、2017年1月21日にキックオフシンポジウムを開催しました。そこでは、基調講演に佐賀のNPOスチューデント・サポートフェイス代表理事の谷口仁史氏をお招きし、60名の参加がありました。質疑応答では、参加者からの活発な質問もあり、子どもの貧困問題に対して関心の高さがうかがえました。さらに、パネルディスカッションも行われ、(株)テラ・ウェブクリエイト社長の寺田克彦氏、那覇市福祉部保護管理課の崎枝智氏、具志光展氏、琉球大学法文学部教授の本村真氏らが、それぞれの立場から子どもの貧困問題への取り組みや、課題や問題提

起などを行い、大変盛況なシンポジウムとなりました。

ブランディング事業は、要件として、学外からの評価を受ける事が求められています。本学でも那覇市・中小企業家同友会・他大学教授等に評価委員を委嘱し、2017年3月24日に外部評価会議を開催しました。会議では主に、ブランディ



ング事業における2016年度の研究の取り組みを説明し、委員の方々からは、その研究内容に関しての質疑を受けました。最後にとりまとめた委員からの意見として、子どもの貧困は大きな問題であり、ブランディング事業を通して成果が出ることを期待したい、とのコメントを頂き2016年度の活動は終了しました。

2017年度の研究・研究班の公募では、個人研究2人と共同研究5班が採択されました。5月には研究予算額も決定し、各研究・研究班の活動が始まっています。

また、今年度は実践支援の取り組みとして、繁多川公民館や地域の自治会の方々の協力を得て、「放課後こくば子ども教室」を実施しています。これは、子どもを孤立させないように、沖繩大学アネックス共創館に歩いて通える範囲に住んでいる上間小学校と仲井間小学校の子どもたちを対象に、地域の大人や本学学生と、放課後の時間を一緒に楽しく過ごしてもらおうという企画です。週に一回、学校を終えた子どもたちは、集まった人たちと一緒にま

らっています。

さらに現在、夏休みの小学生の過ごす場所として、本学学生から提案のあった企画が進行しています。これは支援の必要な世帯の小学生が集い、夏休みの宿題対策や調理体験、フットサル教室や沖大キャンパスツアーなど、小学生で協力して色々な事に取り組んでもらえるような内容を検討しています。

ブランディング事業は三年事業で、現在折り返し点です。これまでの実績を踏まえて、さらに子どもの貧困の解決に向けた、研究支援・実践支援を企画し実施していく予定です。





「沖縄大学アネックス共創館」のオープニングセレモニーを4月12日に開催しました。アネックス共創館2階には沖縄大学地域研究所が移設され、今後は、土曜教養講座をはじめ各種公開講座の拠点となります。また、アクティブ・ラーニングのスペースとして、学びの共同空間を整備し、地域の公民館等と協力して、子どもの学習支援や食堂機能にも挑戦していく準備をしています。さらに、共創館の屋外グラウンド整備によって、

沖縄大学アネックス共創館、供用開始。



地域の健康づくりの人材を養成する健康スポーツ福祉専攻の教育活動がさらに充実し、学生の課外活動でも大いに活用されることが期待されます。沖縄大学の理念「地域共創・未来共創の大学へ」歩みを進めていくために、コミュニティ・キャンパスとして沖縄大学アネックス共創館の整備が進んでいます。

ラーニング・コモンズ OPEN!



「学習のためのコモンズ」とは、「学習のための共有空間」という意味で、個別学習はもちろんグループ学習やワークショップなど様々に利用できます。また、これまで図書館内にあった「ライティングセンター」を新たに設置し、学生のレポート相談の窓口を開設しています。

4月10日に、ラーニング・コモンズが2号館2階にオープンしました。ラーニング・コモンズとは、

沖縄大学創立60周年記念事業資金のための募金活動状況

沖縄大学は2018年6月10日に創立60周年の節目を迎えます。その記念事業として、学生食堂の新設、アクティブ・ラーニングの為に教室やグラウンドの整備に取り組んでおり、高等教育を担う学校法人として、後援会、同窓生、一般の皆様、並びに企業、法人様より、随時募金の受付を行っております(5千万円を目標に寄附金を募ります)。募金活動は2019年3月までを予定しております。今般広報誌の刊行に際し、2017年4月3日以降(2017年8月10日現在)に受け入れた募金についてご報告し、改めて御礼を申し上げます。なお、引き続き寄附金を募集いたしておりますので、特段のご芳情を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

2017年4月3日から2017年8月10日までのご寄附企業名 及び ご芳名 (順不同) 金額単位:円

■企業・法人	■同窓会関係者	小野 啓子	30,000	クリスティー・ブライダー	5,000	森田 泰弘	25,000
ご芳名 金額	ご芳名 金額	若林 千代	25,000	島村 聡	5,000	山城 真子	5,000
㈱金秀本社 代表取締役会長	齋藤 登	吉本部 篤	10,000	喜屋武 勝子	10,000	國吉 正	5,000
呉屋 守将 1,000,000	島袋 英光	我部 聖	25,000	石丸 端子	5,000	金安 敬	15,000
㈱琉仁カスターサービス 代表取締役	具志堅キヨ子	山口 満	25,000	吉井 美知子	10,000	安里 賢吾	5,000
城 英俊 302,400		盛山 寛	50,000	池間 生	5,000	安名 幸夫	10,000
㈱おきぎんリース 代表取締役社長	■一般篤志家	豊川 明佳	5,000	天久 輔子	10,000	神池 美志	5,000
西平 典明 100,000	ご芳名 金額	島袋 隆志	10,000	大より 紀子	10,000	神池 貴志	5,000
南仲松商事 代表取締役	外間 なるみ	糸島 哲	10,000	田代 真貴	5,000	廣名 中嘉夏	5,000
仲松 由清 30,000	佐喜真 望	矢島 秀和	5,000	大松 健二	3,000	新垣 真一郎	5,000
沖繩バナソニック特機㈱ 代表取締役	吉岐 眞一郎	木村 英紀	10,000	大松 健二	10,000	兼島 徹	5,000
木村 隆夫 30,000	小島 宏	西 泉	20,000	系数 直樹	15,000	兼原 亜由美	10,000
	玉城 増美	ティール・チャンドラール	25,000	城 達司	15,000	那原 尚	5,000
		上地 武昭	20,000	城 藤哲志	10,000	田丸 慎	5,000
		伊藤 文志	5,000	城 哲志	10,000	牧 志麻衣子	5,000
■後援会(在学生の保護者等)	■本学教職員	須藤 義英	5,000	備前 紀子	5,000	上江洲 光司	5,000
ご芳名 金額	ご芳名 金額	須藤 義英	5,000	備前 紀子	5,000	金城 慎介	5,000
照屋 正 10,000	長濱 正弘	宮城 公子	10,000	備前 紀子	5,000	島 小百合	5,000
吉田 茂 50,000	仲地 博	宮城 健	5,000	備前 紀子	5,000	島 かなさ	5,000
名嘉真美和子 5,000	佐喜真 貴	高城 健	5,000	備前 紀子	5,000	志比 彰	5,000
	久貝 興徳	高城 健	5,000	備前 紀子	5,000	志比 彰	5,000
	古座 文彦	嘉数 健	10,000	備前 紀子	5,000	志比 彰	5,000
				備前 紀子	5,000	志比 彰	5,000

総額 4,008,400 円 総額については、匿名希望者のご寄附も含めた募金額です。

本件掲載分については、広報誌掲載へのご了解が確認できた企業名・ご芳名を報告させていただきます。この度のご寄附に関し、重ねて感謝申し上げますとともに、頂戴いたしました募金につきましては、この趣旨に沿うよう有効に活用させていただきます所存でございます。

2017年度

沖繩大学入学式

4月2日(日)、本学体育館で2017年度入学式が行われました。保護者や教職員、同窓会そして後援会など関係者らが見守る中、法経学部251名、人文学部284名、大学院現代沖繩研究科6名、計541名の新入生は、これから始まる沖繩大学での学生・院生生活への期待を胸に、式に臨みました。

仲地学長は式辞で「全国に800に近い大学の中で、この特色ある沖繩大学に集うことができたことを、全教職員、関係者全てが大変嬉しく思っています」と喜びを表し、沖繩大学の理念を語りました。

法経学科に入学した石川眞子さん(石川高校出身)は、新入生を代表して「今日の世界や日本、そして沖繩には、極端な排外主義の台頭、東日本大震災からの復興、子どもの貧困、基地問題などの、容易には解決に至らない問題が山積しています。そのような状況の中にある私たちは、大学という恵まれた環境のもとで専門的な知識を身につけ、より深く追求することによって、それぞれの問題の核心をしっかりと捉え、解決策を見つけ出し、社会に役立てるような人材になることを目標に、日々精進していきたいと思えます」と抱負を述べました。

閉会の挨拶では、島袋隆志学生部長が「うちなーわかむん、ひやみかち立てば、なさんくとうねらん、なしてい見しら」と新入生にエールを送りました。

学長式辞(抄録)

沖繩大学学長 仲地 博

「地域共創の大学」

皆さんの中には、沖繩大学の教育研究を指導する理念を調

あげることを目標に教育・研究そして地域と連携した活動を行う大学です。

「地方創生」

ところで、皆さんは、地方消滅という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。三年ほど前に、政策提言の組織である日本創成会議が打ち出した「地方消滅」という議論が大きな反響を呼びました。日本はすでに人口が減少していく社会ですが、二〇四〇年には全国の市町村の半分が消滅する可能性があるとされています。人口減少で地域が崩壊し、財政難で自治体が運営できなくなるというのです。

この報告は、衝撃的でした。それに対して政府が打ち出した政策が地方創生です。地方創生の「創生」は、創り生まれると書きます。平たくいえば創り出すことです。地方創生政策の目標は、東京一極集中を解消し、地方の人口減少に歯止めをかけ、地方の活性化をはかることです。その中で、地方に立地する大学には大きな期待が寄せられています。文部科学省は「地方大学等創生5か年戦略」を立て、地域社会と連携した課題解決に取り組む大学を評価支援し、また私立大学において地域発展に貢献する取り組み

を強力に支援しています。

「地域と共にある沖繩大学」

そのような国の政策の中で、昨年度、沖繩大学は、文部科学省が募集する「私立大学研究ブランディング事業」を行う大学として採択されました。地域の発展に役立つ研究を大学全体として行う大学として評価されたのです。全国に一千に近い私立大学・短大の中で、採択されたのはわずかに一七大学です。一昨年は、やはり文部科学省の私立大学総合改革支援事業で、沖繩大学は、地域発展に組織的に取り組む大学として採択されました。両事業とも、沖繩では、沖繩大学だけです。地域と共にある沖繩大学の実績が認められたのです。沖繩大学は、地方創生の時代に、時代の最先端を行く大学と言ってよいでしょう。沖繩大学は小さくともキラリ光る大学です。皆さんが学ぼうとする沖繩大学とはこのような大学なのです。

「沖繩大学憲章」

沖繩大学は、大学の教育研究の理念を「大学憲章」として定めておりますが、こう述べています。「沖繩大学は、地域に根ざす大学として沖繩にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖繩の活性化に尽力

し、そのことを通じて学生を教育し大学の活性化をはかります。また県都那覇市にある大学として、『人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点』となることを目指します。『学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖繩大学は、今まで以上の高い評価を地域社会からかち得ていきます』。まさに、地域創生政策の中の大学の役割が、沖繩大学憲章の中には謳われているのです。



2017年度 冠奨学金証書 授与式

冠奨学金は、県内の企業・団体及び個人からの寄附金で運営されている奨学金制度です。

今年度の冠奨学金授与式が8月9日(水)に同窓会館で開催され、33名の学生に奨学金が授与されました。奨学生を代表し、国際コミュニケーション学科4年次の仲里拓真さんから、ご寄附をいただいた皆様への感謝の言葉と今後の抱負が述べられました。また、寄附者代表として、株式会社沖繩銀行の瀧石様より温かい激励のお言葉をいただき、奨学生の皆さんへエールが送られました。



2017年度 沖繩大学後援会 総会

沖繩大学後援会は、学生の教育・研修活動に対する補助や奨学金の給付等により、学習や課外活動の支援を行っています。

沖繩大学後援会総会が、6月3日(土)本館101教室で開催されました。総会では、2016年度の事業報告、決算報告及び監査報告、2017年度の事業報告(案)、予算(案)、役員(案)が審議され、全て承認いただきました。総会資料については、本学HPの後援会ページでご覧いただけます。

昨年度は、奨学金の給付の他、学

2017年度 沖繩大学同窓会 総会

沖繩大学同窓会定期総会が6月3日(土)本館102教室で開催されました。

総会では、第1号議案(2016年度事業活動報告、収支決算報告、監査報告)、第2号議案(2017年度事業計画(案)、収支予算(案))、第3号議案(2017・2018年度役員・評議員(案))について審議され、全会一致で承認されました。

2017年度同窓会役員は、会長に友利浩氏が就任され、4年

生のボランティア活動や運動部への補助、海外スタディツアーへの派遣補助等、学生の様々な活動に対する支援を幅広く展開いたしました。今年度は、2018年に迎える沖繩大学創立60周年の記念事業の1つである学生食堂の新設に対し、補助事業を行います。今後も

学生の修学環境や学生生活をより充実したものにするため、引き続きサポートを行ってまいります。8月31日から県内5地区で行われる保護者懇談会には会長・副会長が参加し、会員の皆様と交流を深める予定です。

今年度も引き続き後援会活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いたします。

間ご尽力された金城正弘氏からバトンを引き継ぎました。

2017年度の会長・副会長は次のメンバーです。

【会長】友利浩(新任)

【副会長】金城正美、玉城舞瑛子、仲村昌和、謝花美佐子、稲嶺諭(新任)

事業計画(案)では、沖繩大学同窓会経済ネットワーク(仮称)の設立準備や、2018年に迎える沖繩大学創立60周年に対する寄付活動への協力等が確認されました。

同窓会では、今後も沖繩大学と沖繩大学同窓会の発展のために、様々なサポートを行ってまいります。

【2017年度役員】
会長

嘉数昇明(元沖繩県副知事)

副会長

照屋正(りゅうぎん総合研究所常務取締役)

副会長

新城孝幸(沖繩銀行融資統括部部長)

2017年度 沖繩大学後援会・ 同窓会合同懇親会

6月3日(土)、沖繩大学後援会と沖繩大学同窓会の合同懇親会が本館同窓会館で行われ、約160名の関係者が出席されました。

保護者懇談会の 開催について

本学は、きめ細やかな学生支援を行うため、各学生の学業や学生生活等の状況について、教職員と保護者との個別面談会を開催しています。今年度の開催日程は次の通りです。是非ご参加ください。

日程及び会場一覧

- 久米島地区 / 8月31日(木) ホテル久米アイランド
- 宮古地区 / 9月6日(水) ホテルアートルエメラルド宮古島
- 八重山地区 / 9月7日(木) アートホテル石垣島
- 北部地区 / 9月12日(火) ホテルゆがふいんおきなわ
- 中南部地区 / 9月16日(土) 沖繩大学

お問い合わせ先: 学生支援課

☎ 098-8332-7182



教育活動収支

特別収支

特別収支差額

教育活動収支差額

教育活動外収支

教育活動外収支差額

学生生徒等納付金とは



沖繩大学大学院・現代沖繩研究科には、「地域経営専攻」と「沖繩・東アジア地域研究専攻」

大学院

の2専攻があります。

① 昼夜・土曜開講制／講義科目や演習は、原則として平日の6〜7校時と土曜日の3〜6校時に開講されます。

② 長期履修制度／2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について、長期履修生(3年間)としての入学を認めます。

③ 専修免許取得／社会(中学)、公民・地理歴史(高校)の一種免許状保有者が本大学院を修了すると専修免許状が取得できます。

2018年度 沖繩大学大学院 入試日程

入試日程		願書受付	入試日
A O入試		2017年 8月7日(月)～ 2018年 2月13日(火)	第1次面談日は 志願者と調整
一般入試	10月試験	2017年 9月25日(月)～ 10月2日(月)	2017年 10月7日(土)
	2月試験	2018年 1月29日(月)～ 2月6日(火)	2018年 2月17日(土)

2018年度 沖繩大学 入試日程

		願書受付期間	入試日
A O入試	8月	2017年 8月1日(火)～ 8月9日(水)	2017年 8月13日(金)～ 8月20日(日)
	10月	2017年 9月25日(月)～ 10月5日(木)	2017年 10月14日(土)～ 10月15日(日)
	12月	2017年 11月24日(金)～ 12月5日(火)	2017年 12月16日(土)～ 12月17日(日)
推薦入試		2017年 11月1日(水)～ 11月9日(木)	2017年 11月18日(土)～ 11月19日(日)
前期	一般入試	2018年 1月5日(金)～ 1月23日(火)	2018年 2月6日(火)～ 2月7日(水)
	センター試験 利用入試		2018年 1月13日(土)～ 1月14日(日)
中期	一般入試	2018年 2月5日(月)～ 2月21日(水)	2018年 3月2日(金)
	センター試験 利用入試		2018年 1月13日(土)～ 1月14日(日)
後期	一般入試	2018年 2月27日(火)～ 3月6日(火)	2018年 3月13日(火)
	センター試験 利用入試		2018年 1月13日(土)～ 1月14日(日)

募集定員

入試種別 学科・専攻	AO入試 8月	AO入試 10月	推薦 入試	専門・総合 学科特別	AO入試 12月	前期		中期		後期		合計
						一般	センター 利用	一般	センター 利用	一般	センター 利用	
法 経	40	22	65	10	18	24	28	10	7	3	3	230
国 際	15	10	19	3	5	10	7	5	2	2	2	80
福祉文化(社会福祉専攻)	20	12	30	4		5	3	5	2	2	2	85
福祉文化(健康スポーツ福祉専攻)	10		20			5	3	5	2			45
こども文化			20			14	10	4	2			50
合 計	85	44	154	17	23	58	51	29	15	7	7	490

事業活動収支予算書

(単位:千円)

科 目		本年度予算	前年度予算	増・減
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,560,000	1,579,773	△ 19,773
	手数料	22,094	22,262	△ 168
	寄付金	27,260	25,710	1,550
	経常費等補助金	291,642	290,718	924
	付随事業収入	1,984	3,157	△ 1,173
	雑収入	52,945	13,054	39,891
	教育活動収入計	1,955,925	1,934,674	21,251
事業活動支出の部	人件費	1,142,604	1,151,244	△ 8,640
	教育研究経費	701,291	678,080	23,211
	管理経費	90,395	83,726	6,669
	教育活動支出計	1,934,290	1,913,050	21,240
教育活動収支差額		21,635	21,624	11
科 目		本年度予算	前年度予算	増・減
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	4,256	5,360	△ 1,104
	教育活動外収入計	4,256	5,360	△ 1,104
	借入金等利息	12,441	13,287	△ 846
	教育活動外支出計	12,441	13,287	△ 846
教育活動外収支差額		△ 8,185	△ 7,927	△ 258
経常収支差額		13,450	13,697	△ 247
科 目		本年度予算	前年度予算	増・減
特別収支	資産売却収入	117	0	117
	その他の特別収入	7,092	7,092	0
	特別収入計	7,209	7,092	117
	特別収支差額	7,092	7,092	117
〔予備費〕		10,000	10,000	0
基本金組入前当年度収支差額		10,659	10,789	△ 130
基本金組入額合計		△ 236,433	△ 485,085	248,652
当年度収支差額		△ 225,774	△ 474,296	248,522
前年度繰越収支差額		△ 717,249	△ 172,063	545,186
翌年度繰越収支差額		△ 943,023	△ 646,359	296,664
(参考)				
事業活動収入計		1,967,390	1,947,126	20,264
事業活動支出計		1,956,731	1,936,337	20,394

▶11ページ…2017年度予算の続き

経常的な収支バランス
臨時的な収支バランス

教育事業での収支
教育事業外の収支

毎年度の収支バランスを見ることが出来る額です。

土地や建物、備品、図書等、法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額です。

2017年度は、大学の本業である教育活動の収支差額が+2千1百万円、教育活動外の収支差額が-8百万円、この合計である経常収支差額が+1千3百万円。つまり、本業による教育活動で得た収入で教育活動外で出た支出を補い、1千3百万の収入超過(黒字)となるということです。

基本金組入前の当年度収支差額は+1千万円の黒字ですが、2億3千6百万円の基本金組入額により、当年度収支差額は2億2千5百万円の赤字となっています。



沖繩県内の大学で初めて Web 出願を導入しました。紙の願書を取り寄せる必要がなくなり、ネットから出願登録が行えます。

学部

イベント情報

第3回オープンキャンパス
10月28日(土)午後1時
送迎バス有、県外・離島参加者は受験料免除特典があります。

お問い合わせ先 入試広報室(電話098-832-13270)

2018年度 学生募集